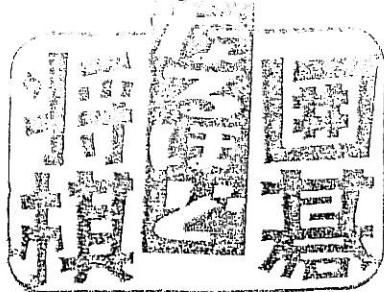


($\frac{3}{5}$)

'20-4-15



四目八目

大澤完治さん
おおさわかんじ
③



16年ほど前、娘の奈留美（大澤田段）から「菊池康郎先生がお話ししたい」とがあるので、中野の緑星本校に来てほしい」と電話がありました。菊池先生は有名な緑星学園の創設者。お会

「すみれ」「子供教室を始めたそ�です。お役に立つなり『縁壁』の名前を使つてください」というありがたいお話をした。さっそく『縁壁さいたま』と名乗らせていたまああした。当時は漫画「ヒカルの碁」ブームの直後で、小学生が田の色を変えてグループで碁会所に来ていた時期でした。

「縁星さいたま」名乗り教室

うどその頃、アマ日本一の菊池先生が開校した・新大久保にありお会いしたので、喫茶店に「やあこやかに現れた新しい姿を見て、は違つものだなした。すぐに娘をお願いしました。その年の秋が、また妹・摩学(まがく)3年)が半年に通い始めました。緑星では、山下段)兄弟、秋山

「…………」
溝上知親（同）など、奈留美と同年配の俊英が多数勉強していました。そうした環境に恵まれ、奈留美は翌年の少年少女大会で全国6位に入賞できました。
「一流の人」と感じま
ると感じま
るのう指導を女です。
「これからも「緑星さいたま」は、日本の優れた伝統文化である団碁の素晴らしさ、楽しさなどを伝え、普及活動を積極的に推進していくことをいきたいと考えています。
から奈留美耶（当時小学校3年生）は、緑星迟到た。当時の緑星敬吾（現九段）と、次郎（同）、（緑星さいたま代表）